

Title	経営資源と多角化
Sub Title	
Author	大久保健一(Ookubo, Kenichi) 矢作恒雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1991
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1991年度経営学 第820号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0820">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001991-0820</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名	大久保健一 (ダイキン工業株式会社)	主査 矢作 恒雄 副査 古川 公成 青井 倫一
所属	矢作 恒雄 研究室	

## 経営資源と多角化

本研究の目的は、事業活動に投入されるインプットとしての現有する経営資源が、企業が多角化をしようとする分野を事前的に説明できるかどうかを明らかにすることである。

経営資源を金融資源、無形資源、物的資源の3つに区分し、さらに、金融資源を内部資金と外部資金に区分した。内部資金とは、流動資金と通常の利率資金を借りられる未使用の借入枠とし、外部資金とは、資本市場からの資金調達力と高利率の資金を借りられる力とする。

各々の経営資源は、どれだけの種類の最終製品を生産するために利用できるかというフレキシビリティにおいて、相違があると考えられる。

金融資源は最もフレキシビリティがあるという性格を有するが、経営者が金融資源をどのように投入しようとする際、外部資金は資本市場の制約を受け、外部資金が多い企業は、関連分野へ進出する傾向があると考えられる。一方、内部資金は、制約を受けないので、内部資金が多い企業は、相対的に非関連分野へ進出する傾向があると考えられる。無形資源の多い企業は、関連と非関連の中程度の分野に進出する傾向があり、物的資源の多い企業は、関連分野へ進出する傾向があると考えた。

多角化度指数を従属変数とし、被説明変数を各経営資源の代理変数を用いて重回帰分析により、仮説の検証を試みた。

検証の結果、物的資源の多い企業は関連分野へ進出する傾向があり、無形資源の内の、広告宣伝の経営資源の多い企業は、関連分野へ進出する傾向があることがわかった。